

平成 31 年 1 月 22 日

## 平成 30 年度 総務文教常任委員会視察報告書

1. 日 程 : 平成 30 年 11 月 6 日 (火) ～ 8 日 (木)
2. 視 察 先 : 京都府宮津市 人口 18,426 人 (平成 27 年国調) 面積 172.74 km<sup>2</sup>  
兵庫県篠山市 人口 41,968 人 (平成 30 年 3 月末現在) 面積 337.59 km<sup>2</sup>
3. 視 察 事 項 : 宮 津 市 防災対策について  
篠 山 市 財政再建について (篠山再生計画について)
4. 視 察 者 : 委 員 長 浅 野 一 明 副 委 員 長 安 武 秀 敏  
委 員 佐 藤 俊 夫 委 員 山 田 義 栄  
委 員 樋 口 浩 二  
当 局 丸 山 崇 志 企画財政課 課長補佐  
随 行 吉 田 和 実 議会事務局 主査

一行 7 名

---

### 宮津市

#### (1) 宮津市の概要

京都府の北西部に位置し、南部と北部が特別名勝「天橋立」の“砂嘴(さし)”によってつらなる特異な地形を有している。面積は 172.74 km<sup>2</sup>。気候は、日本海側特有の気候に類し、年間降水量は比較的多く、夏季は高温多湿で晴天の日が続き、冬季には日本海特有の“うらにし”と称されるしぐれが続き、多くの雨や積雪がみられる。

宮津には、縄文・弥生・古墳時代からの永い歴史があり、奈良時代以降、丹後地方の政治・経済・文化・宗教の中心地として、また江戸期には、北前船の西廻り航路の寄港地としても栄えた。昭和 29 年 6 月に旧宮津町と 7 か村が合併し宮津市となった。

人口は、昭和 30 年の 36,200 人から減少傾向が続いており、近年は高齢化の進行が著しく大きな課題となっている。

#### (2) 防災対策について

- i. 平成 30 年 7 月豪雨による被害等の概要について

人的被害：負傷者 4 人（軽症 4 人）いずれも土砂災害による

住家被害：全壊 2 棟、一部損壊 4 棟、床上浸水 24 棟、床下浸水 254 棟

非住家被害：全壊 2 棟、床上浸水 2 棟、床下浸水 35 棟

河川氾濫による被害：11 河川

公共土木施設被害：市道 47 路線、河川 20 河川、都市下水路 9 路線、里道 4 路線、公園 4 箇所、下水取付管 1 箇所

農林水産関連被害：（農地農業用施設）農地 235 箇所、農道・水路 150 箇所、（林道・治山）林道 7 路線（39 箇所）、山林 28 箇所、（漁港施設・海岸）漂着ゴミ 3 箇所、（農作物）水稲・九条ねぎ等（約 2.6ha）、（農業用施設）パイプハウス 1 棟、農機具庫 3 棟、農業機械 4 台、鳥獣防護柵 11 箇所計 784m

その他被害：水道施設 25 箇所、学校教育施設 3 箇所、社会教育施設 1 箇所、文化財等 3 箇所、市有山林 1 箇所、防火水槽 2 箇所、観光施設 4 箇所、衛生施設 1 箇所、製造施設 1 箇所、京丹後鉄道宮舞線 2 箇所・宮豊線 2 箇所、丹後海と星の見える丘公園

## ii. 時系列の対応

日時	気象警報等の 発表状況	避難情報等 発令の状況	被害等の発生状況
7月5日 3:34	大雨・高潮・雷注意報		
11:56	大雨警報（浸水）	12:00 災害警戒本部設置	
14:14	大雨（浸水・土砂）警報		
15:04	大雨（浸水・土砂）・洪水警報		
17:00		避難準備・高齢者等避難開始 発令（市内全域）	府道 1 路線通行止め 18:30～ 7 世帯 14 人孤立
5日 22:57～6日 16:10 まで	大雨警報（浸水・土砂）4 回、洪水警報 2 回	5日 18:00 市内 12 箇所の避難所開設	6日 10:00 国道 178 号線一部通行止め
6日 21:55	京都府土砂災害警戒情報		
22:00		避難勧告（宮津地区・上宮津地区 1,303 世帯）	
22:50	大雨特別（土砂）・洪水警報		

23:00		避難勧告（市内全域 8,594世帯）	
7日 0:22			土砂崩れによる生き埋めの通報（池ノ谷地区）
0:30		避難指示（池ノ谷地区 29世帯56人）	

### （3）所感

今回の視察では、7月豪雨災害時の時系列での対応について、市民への情報の発信方法や避難情報の発信の基準、避難所での対応、消防団や自主防組織のなど市民の災害への動きや、さらには、災害収束後のボランティアの受け入れについてまで、詳細な資料に基づいて説明頂いた。本報告書ではその僅かな一部分しか記載できないが、資料は議会事務局に備えてあるので、ぜひご覧頂きたい。

宮津市では、これまでも大雨等による災害が相次ぎ、それを踏まえて、情報メールや有線放送を利用した個別受信機の設置など情報提供の体制を整えること、また、どのような状況になったら避難情報を発令するか事前に基準を設けることなど、さまざまな対応がなされていた。また、今回の災害を受けて、市の職員全員に災害対応への評価や反省など意見を求めて新たな対応策の検討にあたるなど、防災に対する積極的な姿勢がうかがえた。

加茂市にあっても、ハザードマップの作成と合わせて、地域に合った防災対策が検討されるべきと考える。

## 篠山市

### （1） 篠山市の概要

平成11年4月に多紀郡4町（篠山町・西紀町・丹南町・今田町）が合併して市政が施行された。兵庫県の中東部に位置し、京都市から40～50km圏内、関西経済圏の中心都市大阪からも40～50kmにあつて、JR福知山線、舞鶴若狭道、国道173号、176号、372号が走り、兵庫県の内陸地域として、自然環境の豊かな生活・文化圏域である。

面積は377.59㎢で、兵庫県の面積の約4.5%を占める。四方を山に囲まれた篠山盆地と呼ばれる地形となっており、地目別にみると、農地44.5㎢、宅地9.7㎢、山林169.54㎢である。

なお、篠山市では、当委員会視察後の11月18日に市名変更の賛否を問う住民投票が行われ、開票の結果、賛成多数となった。この結果等を受けて、11月27日に開かれた市議会臨時会において「市の名称を変更する条例」が可決成立し、平成31年5月1日より「丹波

篠山市」へと市名を変更することが決定されている。

## (2) 篠山再生計画について

### i. 篠山市の平成 29 年度決算状況 (参考：加茂市との比較)

平成 29 年度決算	篠山市	加茂市
歳入総額	22,693,777 千円	11,792,819 千円
歳出総額	22,030,275 千円	11,758,832 千円
財政力指数	0.405	0.422
経常収支比率	99.2%	99.9%
実質公債費比率	19.1%	12.3%
将来負担比率	187.2	124.3
地方債現在高	19,071,320 千円	9,789,734 千円
積立金現在高	5,777,182 千円	139,311 千円

篠山市は、平成 11 年に多紀郡の 4 町が合併し誕生した。合併後、地域の課題であった都市基盤整備に取り組み、水資源対策として県水の導入や、清掃センター改築、斎場(火葬場)、JR 駅前整備、チルドレンズミュージアム、西紀運動公園、中央図書館、今田薬師温泉など、平成 11 年から 15 年に

かけて集中的に行った。また、合併前から各町が積極的に取り組んでいた下水道事業も推進し、それらの結果、平成 15 年には地方債残高が 1,136 億円に達した。

平成 12 年から第一次行政改革、平成 17 年からは第二次行政改革に取り組み、事業の見直し等を行ったが、さらに平成 22 年度から始まる交付税の一本算定(交付税の減額)に備えるため、諮問機関を設置し、その答申に答える形で篠山再生計画を策定し、行政改革を進めるに至った。

篠山再生計画は、定員・給与の見直し、議員定数・報酬の見直し、公共施設の見直し、事務事業の見直し、自主財源の確保、組織・機構の見直し、補助金・負担金の見直しを掲げ、全 122 項目の方策を実施することで、平成 22 年度以降、毎年 13 億 3500 万円の歳出削減に取り組むというものである。その他の行財政改革方策を合わせて全 140 項目の実施により、平成 29 年度の実績効果額は 11 億 5,484 万 4 千円、平成 20~29 年度累計では 134 億 4,932 万 2 千円となった。

## 所感

財政再建は、自主財源を急には増やせない以上、歳出の削減が基本となる。歳出の削減にあたっては住民サービスの低下につながらないように、代替手段を検討するなどの慎重な配慮が必要である。